The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞美浜町誌編纂委員会編　『わかさ美浜町誌＜美浜の文化＞第四巻　舞う・踊る』
Author(s)	神明, あさ子
Citation	語文. 2008, 91, p. 100-100
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69126
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

紹介

美浜町誌編纂委員会編
『わかさ美浜町誌〈美浜の文化〉第四巻　舞う・踊る』

神明あさ子

本書は、『わかさ美浜町誌』の第四巻として、「舞う・踊る」というテーマで、町内の祭礼・仏事における伝統芸能、近代以降に見られる芸能文化、および現代の芸能活動を編纂したものである。四章と資料編から成り、本会会員の須田悦生氏が、編集責任者として、「はじめに」と第一章第五節・第二章第四節を執筆されている。町誌編纂室には、同じく会員の成田かおる氏も所属される。第一章「神々の芸能」では、町内の宇波西・弥美・織田神社で演じられる芸能について、それぞれの芸能がいかにして美浜の地にもたらされ、伝え残されてきたかを紹介する。中でも、祭りの主役である「王の舞」について詳しい。これは、中世から続く貴重な伝承であり、その始まりは古代の伎楽に由来する。若狭地方の「王の舞」は、戦時中、研究者錦耕三によって初めて発見・紹介され、重要な文化財として、現在も研究が進められている。続く第二章「仏たちと芸能」では、念仏踊の一つ「六斎念仏」や長老たちが歌い継いできた「ありがた歌」などを、その宗教性を取り上げて、仏教的な立場から論じる。さらに、成田氏執筆の第三章「子供歌舞伎の伝承」では、近世に始まる子供歌舞伎の歴史と現代の上演状況についてまとめる。そして第四章「近代以降の芸能文化とその受容」では、演劇・映画・音楽・落語など、近代以降に町内で取り組まれてきた芸能を考察する。小学校での落語クラブの取り組みなど、伝統文化が今後を担う世代に継承されていく経緯として興味深い。

美浜町の芸能文化を、中世から現代まで幅広く採録する本書は、須田氏による編集後記の「不易と流行という。祭祀や芸能の内容、種類、参加者は万古不変ではない。数百年前と同じ（不易）ように執行される部分もあれば、時代によって変わっていく（流行）ところがある」という言葉どおり、美浜町の文化を通じて、「不易流行」ということに思いを馳せたくなる一冊であろう。

（美浜町、二〇〇八年三月、六二九頁、四、〇〇〇円）

（しんめい・あさこ　本学大学院博士後期課程）